学 校 ・ 地 域 の 概 要

本校は、明治１２年３月に通津小学校として開校された。明治２２年、旧通津村と旧長野村の合併、さらに昭和３０年の岩国市との合併を経て、現在の岩国市立通津小学校となった。

学校の東側を国道１８８号線がほぼ南北に走り、ＪＲ山陽本線が国道と交差しつつ並走している。学校を含む地区中心部から南２キロメートルの所で、国道と柳井市伊陸、旧周東町、周南市(旧熊毛町)につながる県道(一部大規模農道)とが接合している。その地点から約１．５キロメートルの所に通西分校(平成１０年度休校)がある。

通津地区は、面積１５．７平方キロメートル、世帯数２，０９８戸、人口４，５２３人の通津川を中心に拓けた肥沃な地域で、気候は温暖である。(平成３０年４月１日現在)

地域の大部分は山林であるが、通津川流域の河口南部を中心に発展し、今でも岩国市役所通津出張所、公民館、農協、医院、商店、幼稚園等からなる中心街を成している。

通津川沿いの平地には、レンコンが栽培され、山麓ではミカンが作られている。

また、昭和４０年頃から、臨海地帯は干拓が進み、瀬戸内海工業地帯の一環として、旭化成・モラルコなどの近代的な工場の進出が見られ、今では、クレシア・東洋自動機ほか数社が中規模工業地帯を形成している。

しかし、地区の主要産業は、依然として農業を中心とした第一次産業であるが、地区の人々は、地元産業に従事する一部の人を除いて、大半が岩国市街地及び周辺部の第二次産業に従事している。

近年、国道を挟んで北部の開発が進み、東側の海岸部と西側の丘陵地などに、新しい団地が造成されて、他地域から移り住む人も多く、またそれに伴っての大型店舗の進出などで、地域の様相にも変化が見られるようになり現在に至っている。ちなみに、新興住宅地の世帯数は、地区全体の約３分の１を占めるようになっている。

通津地区は、昔から、豊かな自然、古い歴史と伝統に恵まれた土地であるが、中でも他に誇れるものの一つとして、学校近くの［桜井戸］がある。こんこんと湧き出る泉水は日本名水百選の一つにも選ばれ、訪れる人が後を絶たない。また、校区内に「通津美が浦公園」があり、四季を通じて市民の憩いの場となっている。

きれいな水・地区を愛する厚い人情・格調高い人脈にあふれた通津の地は、子どもたちの“心のふるさと”にふさわしい土地である。